

第4分野 香り高い地域文化と心豊かな人を育むまち

基本方針3

スポーツに参画できる環境
づくりを進めます

事業年度	令和5年度
責任部長	教育次長
責任課長	スポーツ振興課長
責 任 課	スポーツ振興課
主管課・関係課	スポーツ振興課、社会福祉課、社会教育課、観光課

■施策の概要

施策1: ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】
スポーツを通じて体力や社会性を養い、スポーツ好きな子どもを育成するため、幼少期からのスポーツ活動を推進するとともに、市民一人ひとりが、生涯にわたり心身ともに健康な生活が送れるよう、誰もが気軽に取り組めるスポーツ機会の提供が必要です。そのため、年代、運動能力や体力の違いに応じたスポーツ活動を推進します。	
施策2: スポーツ活動の支援	【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】
競技力向上や少年スポーツ活動の充実を図るため、ハード面やソフト面など様々な側面から継続的な支援を行う必要があります。このため、スポーツを支える指導者の育成や、大会等を支えるボランティアの発掘、スポーツに親しむための環境整備を行うなど、スポーツ活動の支援を行います。	
施策3: スポーツツーリズムの推進	【主管課: 教育委員会事務局 スポーツ振興課】
スポーツに関心をもち、スポーツを「する・観る・支える」市民を増やすための取り組みとして、一流アスリートのプレーに触れ、スポーツの価値や魅力を感じる機会や、子どもたちが夢や憧れをもち、競技スポーツに取り組むきっかけづくりが必要です。また、スポーツ施設の予約管理をはじめ、宿泊施設の案内や、観光要素も含めた複合的な目的での利用など、多様化するニーズに対応するため、スポーツ合宿や大会等の受入態勢を強化するとともに、スポーツによる交流人口を増やし、全国・世界規模の大会やイベント、合宿等を誘致するなど、地域経済の活性化も視野にスポーツツーリズムを推進します。	

■関連指標の動向					現状値	各年度の目標値(上段)					評価年度の 達成率
指標名	単位	管理 種別	望ましい 方向	関連 施策		各年度の実績値(下段)					
						(R1)	R3	R4	R5	R6	
▶ 週1回以上スポーツ活動をする市民の割合(まちづくりアンケート)	%	フロー	↗	施策1	34.9 (R2)	－	－	40.0	－	50.0	105.5%
▶ 小中学生の少年スポーツ団体への加入率(時点)	%	フロー	↗	施策2	65.6	63.0	65.0	67.0	68.0	68.5	82.8%
▶ スポーツを「する・観る・支える」市民の割合(まちづくりアンケート)	%	フロー	↗	施策3	17.7 (R2)	－	－	20.0	－	30.0	117.5%
▶ スポーツ大会・合宿への参加者数(年間)	人	フロー	↗	施策3	3,268	11,000	16,000	21,000	30,000	31,000	113.9%
▶											

■決算データ及び構成事務事業の実施状況									
施策名		R4決算額(千円)	R5決算額(千円)	構成事務事業の実施状況(R5)					
				a	b	c	d	-	小計
1	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	5,464	6,028	0	2	0	0	0	2
2	スポーツ活動の支援	29,142	36,521	1	3	0	0	0	4
3	スポーツツーリズムの推進	19,426	16,345	1	0	0	0	1	2
4									
小計		54,032	58,894	2	5	0	0	1	8

- a: 順調に実施されており、成果が表れている事務事業
b: 概ね順調に実施されており、一定の成果が表れている事務事業
c: 概ね順調に実施されているものの、目指す成果が表れていない事務事業
d: 実施状況及び目指す成果ともに停滞している事務事業

■基本方針に係る総括評価(所見)	【責任部長:教育次長】
令和5年度は、新型コロナウイルス5類に移行し、規制が撤廃されたことで、スポーツ大会や合宿、スポーツイベント、スポーツ教室などスポーツ活動が活発に展開され、「1市民1スポーツ」の推進や大会・合宿誘致において、大きな成果を上げることができた。 少年スポーツ団体連絡協議会へのクラブ加入率は減少し、今後も、少子化等によりクラブ団員数の減少、クラブの消滅が進んでいくことが懸念されるが、クラブの統合、指導者の確保(資質向上)等も含め、学校部活動から地域クラブ活動への移行に向けた関係者(指導者、保護者、学校等)との協議が進み、その課題や改善、子供たちが好きなスポーツをいつまでも続けられる環境「新たな仕組み」の実現に向けても、着実に進められている。	

■施策ごとの評価

施策1:ライフステージに応じたスポーツ活動の推進		【主管課:教育委員会事務局 スポーツ振興課】
評価	A	目指す姿に向けて概ね順調である。
▶後期基本計画策定時の「現状と課題」		◎後期基本計画策定時の「目指す姿」
スポーツ活動に取り組む市民の割合は、やや増加傾向にありますが、30代から50代のスポーツ実施率が低くなっていることから、要因を把握した上で、すべての世代がスポーツに組みやすい環境を整える必要があります。		スポーツに親しむきっかけづくりや、各世代のニーズ、ライフスタイルに合ったスポーツ活動の展開により、市民が健康でいきいきとした生活を送っています。
I.施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)		
【成果】 ○郡上市スポーツ推進委員による活動(軽スポーツ普及、体験教室、研修会等) 市域 活動:旧7ヶ町村ウォーキング【美並】参加者:40名 地域 八幡7回:ノルディックウォーク、大和10回:カローリング、ソフトバレー 白鳥12回:ソフトバレー、ウォーキング 高鷲9回:フリースロー、グラウンドゴルフ 美並11回:モルック、明宝9回(1回)モルック、カローリング 和良6回:マラソン ○市民健康増進体力づくり教室(市内14地区:74回開催) ○スポーツアドバイザー派遣(アスリートによる教室、指導、講演会等) (相撲3回、剣道3回、ラグビー1回、カヌー1回、スポーツドクター4回) ○FC岐阜応援プロジェクト FC岐阜ホームタウンデー開催(チケット実績86名)、FC岐阜選手の市訪問交流(2園実施) ○市内スキー場の協力によるリフト優待券制度(市内在住小中学生リフト券無料【高校生、保護者1,000円】) スキー優待券制度 6,759人利用 【課題】 ○障がい者スポーツの普及(健常者とも一緒に楽しめるスポーツの普及) ○30才代から50才代がスポーツ活動を行うための仕組みづくり ○子どもたちがスポーツの魅力を感じることができるよう小中学校と連携した授業の企画 ○少年スポーツや地域スポーツなど市民が抱える課題を解消するために市民協働で行う行事の実施		
II.今後の方向性と具体的な展開		
○他市事例を参考にして、各地域が連携して取り組めるスポーツを選定し、研修会により楽しみ方や魅力などの発信方法を研究し普及を行う。 ○各行事において特別支援学校等と連携した取組を行う。 ○広い競技場を必要とせず身近で楽しめる「アーバンスポーツ」や親子で楽しめる軽スポーツを推進することで30才代から50才代のスポーツ参加を推進する。 ○地元高校生が企画した旧7ヶ町村をめぐるウォーキングを継続推進するなど、中高校生のスポーツへの参画を促す。 ○小中学校やスポーツアドバイザーの意向を把握しながら、授業の魅力を高めるための企画立案と実施 ○市民が参画しやすいスポーツイベントの開催と多世代による交流の場づくり		

施策2:スポーツ活動の支援		【主管課:教育委員会事務局 スポーツ振興課】	
評価		A	
目指す姿に向けて概ね順調である。			
▶後期基本計画策定時の「現状と課題」		◎後期基本計画策定時の「目指す姿」	
スポーツ少年団やクラブ等の競技団体では、団員数の減少に伴う活動の縮小や休止、競技に精通した指導者の減少が顕在化しており、競技団体の活性化や指導者の発掘・確保・育成に向けた支援が必要です。		競技種目や団体を選択できる環境と、充実した指導体制のもと、競技力が高く活発なスポーツ活動が展開されています。	
I.施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)			
【成果】			
○地域クラブ移行に向けた活動			
・地域クラブへの移行部活動12クラブ			
・指導者資格取得145名			
・地域クラブ活動の在り方等に関するガイドライン案作成			
○全国大会に出場した選手への激励会開催(激励金交付)			
23種目／83名が全国大会出場			
○スポーツ強化種目育成事業による支援(外部指導者謝金、遠征、合宿費等)			
・強化種目の選定(相撲、剣道、スキー、ビームライフル)			
・全国大会出場選手 相撲12名 剣道19名、スキー10名、ビームライフル1名			
○郡上市スポーツ協会活動支援			
・新団員獲得のための教室開催支援 10競技13事業			
・市内交流大会支援 5競技9大会 ・大会/講演会開催 2大会1講演会			
・市外交流大会支援 3競技5大会 ・激励会の開催(市と同時開催)、激励金交付			
【課題】			
○団員数の減少による団体の消滅			
○指導者不足による団体の消滅			
上述の課題を解消するため、土日部活動の地域クラブへの移行をR7.9月に設定しており、その間の指導者、学校教員、保護者への継続的な説明とクラブ統合に向けた理解と各クラブが抱える課題の解消が必要である。			
○地域クラブ移行に向けて、郡上市スポーツ協会、少年スポーツ団体連絡協議会等との役割分担や連携強化が必要。(指導者の発掘、スポーツ振興、交流事業(ジュニア育成)によるクラブ団員加入促進等)			
○競技力のさらなる向上と、ジュニア世代の育成及び競技人口の増加を図る必要がある。			
II.今後の方向性と具体的な展開			
○地域クラブが主体の中体連の新たな組織編成			
○各地域クラブが主体となり教育委員会等とのスムーズな事務手続きへの移行			
○休日から平日クラブの小中学生等の地域連携への移行			
○地域クラブ活動の推進についてスポーツ協会等との連携強化			
○各競技団体の競技力向上を図り、指導者講習会等を開催することで、高い技術を持った若い世代の指導者の発掘につなげる。			

施策3:スポーツツーリズムの推進		【主管課:教育委員会事務局 スポーツ振興課】	
評価		A	
目指す姿に向けて概ね順調である。			
▶後期基本計画策定時の「現状と課題」		◎後期基本計画策定時の「目指す姿」	
まちづくりアンケートによると、スポーツをすることや観ること、支えるといったスポーツ活動に参画する市民の割合が17.7%と低いため、スポーツの価値や魅力を感じることができる機会を提供し、スポーツへの関心を高める必要があります。		スポーツをすることや観る機会、スポーツ活動を支える環境が整い、スポーツ活動に参画する市民が増加しています。	
施設の整備や、スポーツ合宿・大会等の誘致活動により、様々なスポーツや複合的な目的での利用が増加しているため、多様なニーズに対応できるよう受入態勢の強化が必要です。		多様なニーズに対応できる受入態勢が整い、多くのスポーツ合宿や大会が行われ、スポーツによる地域の活性化が図られています。	
I.施策の取組効果や達成状況に関する分析(関連する事務事業の成果や積み残されている課題など)			
【成果】			
○郡上市スポーツコミッションによるイベント、教室の開催			
・宇山芽紅トランポリン教室(体験教室参加者:30名/演技披露観覧者37名、ボランティアスタッフ9名、指導者3名 計79名)			
・郡上元気スポーツフェスタ(来場者:605名 ボランティアスタッフ44名 マルシェ参加者433名 合計1,082名)			
○合宿・大会誘致 利用者			
・吠高原スポーツ広場 14,613人、まん真ん中広場 8,482人、やまと総合センター 338人、郡上市総合スポーツセンター 175人			
・その他 306人			
計23,914人 ※内宿泊者数6,751人			
○地元企業連携			
・キッチンカー出店数(42出店)			
・弁当注文数24件1,391食			
○スポーツ合宿補助金(3,796,260円)			
・24件 3,651人が利用			
【課題】			
○スポーツを「する」だけでなく、多世代が「支える」活動に参画できるような仕組みづくり			
○吠高原スポーツ広場、まん真ん中広場においては、合宿利用が集中する期間(土日祝日、GW、夏休み)に予約が集中し、キャンセル待ちの状態である。			
○宿泊予約は増加傾向にあるが予約を受けれない時期もあるため今後の受け入れ方法について検討が必要である。			
○弁当注文は、値段や、アレルギー等の要望に応えられているが、キッチンカーについては、連携企業がまだまだ少ない為、出店できない場合もある。			
○組織の自立化や他団体との連携強化に向けた方向性について検討することが必要である。			
II.今後の方向性と具体的な展開			
○地元中高生や地元企業が健康増進のためのスポーツ活動を企画し、または参画することを支援できるサポーター(ボランティア)体制づくり。			
○大会、合宿の誘致により、年々利用者が増加しており、土日祝日は予約がとれないため、今後は平日の利用促進を図る。			
○吠高原スポーツ広場、まん真ん中広場以外の市内体育施設(郡上市総合スポーツセンター、やまと総合センター、合併記念公園、主要スポーツ広場の周辺体育館等)の利用促進を図る。			
○地元企業等との連携強化・拡大(登録宿泊業者、キッチンカー組合、弁当業者、観光業者等)を図り、利用者の多様なニーズに対応できるように受入体制を強化し、経済効果の高い取組を実現する。			
○他市のスポーツコミッションの事例を参考にしながら、自主事業の強化や組織の在り方について検討を進める。			
■後期基本計画策定後新たに生じた課題等			
■関連する個別計画の有無			
有	第2次郡上市教育大綱、郡上市教育振興基本計画(第3期)		